

ストックホルム滞在記

～スウェーデンと日本の高等教育システムの違い～

京都大学
山本高至
Koji Yamamoto

1. まえがき

「なぜ教員のあなたが、修士課程の学生の指導にそこまで時間をかけているのですか？ 修士課程の学生に対する細かい指導は、博士課程の学生がすればよいのではないですか？」

滞在し始めてすぐのところに王立工科大学の博士課程の学生にこう尋ねられたのは、私が京都大学の修士課程の学生の論文をかなり細かく添削していたときのことでした。皆様ならこのような質問を受けたとしたら、どう答えますか？

今回はスウェーデンの高等教育事情を交えつつ、長期滞在してこそ実感することとなったスウェーデンと日本の大学の違いについて執筆したいと思います。また、スウェーデンの通信事情についても簡単に記します。

2. スウェーデンの高等教育システム

スウェーデンの高等教育システムでは、制度上は大学5年間、大学院4年間です。ただ、中身は日本の大学・大学院とは随分異なるものです。まず、大学5年間についていうと、日本のような教養課程はなく、初めの3年間を終えると学士号が取得できます。続く2年間の中の一部が（少なくとも王立工科大学では）研究活動で、修士論文を書き、認められると修士号が取得できます。注意が必要なのは、修士課程といっても、少なくとも言葉の上では大学院ではないことです。

大学院では、半分終わったところで Licentiate 論文を書き、認められると Licentiate という学位が取得できます。そして最後に博士論文を書き、認められると博士号が取得できます。大学院生は、何らかのプロジェクトを資金に大学から給与を得ている学生と、例えば国家間の取決めのような何らかのプログラムで生活費を奨学金のような形で得ている学生に分かれます。そのどちらかは、入学の時点で決まっているようです。

プロジェクトとしては FP7 のようなヨーロッパ内のもの、国家プロジェクト、企業からの委託プロジェクトまで様々なものがありました。給与をもらっている学生は、単に試験に通って入学しているというよりは、個々のプロジェクトに採用されるような形で雇われているととらえた方がよいと思います。

王立工科大学の大学院生の月給はあらかじめ決まっており、2009年の一例だと 23,400 SEK (スウェーデンクローナ)* から始まり、研究の進捗に応じて 28,500 SEK まで上がっていく仕組みです。エリクソンで働いてから大学院に入ってきたある学生は、収入は若干下がったけれど問題ない、と言っています。

した。給与は魅力的ですが、逆にこの給与を払わないと日本でいう労働基準法違反になるそうで、研究室によっては給与が払えなくて大学院生をクビにせざるを得ないこともあると聞きました。このあたりも日本でいう大学院生とは随分違う印象です。

給与を得ている大学院生は、その給与に対する義務として 20% の時間を大学での教育活動に充てる必要があります。これは前述の 4 年間には入っていません。残り 80% の研究活動が 4 年間ですから、大学院を修了するためには一般的に 5 年を要するようです。一方、何らかの形で奨学金を受けていて大学からの給与がない大学院生は、前述の教育活動の義務もなく、4 年で修了する人もいました。

教育費は基本的に大学院も含めて無料です。ただ、留学してきて学位を取ってすぐにほかの国に行ってしまう人もいます。事実で、2011 年より非 EU からの学生は有料になるそうです。なお、教育費は無料ですが、大学院生の研究室における居室費用、研究機材の費用、出張費用はだれかが出さなければなりません。日本では、教育費は有料ですが、光熱費を学生が払うという考え方はないと思います。日本では各研究室のスペースは決まっています、固定費用です。一方、王立工科大学ではスペースを使用するために研究室が大学にお金を払います。多くの大学院生がいる場合は、多くのスペースを取るために費用を払っています。私の場合は、渡航費用・生活費は電気通信普及財団から出ていましたが、居室費用や出張費用については Wireless @ KTH という研究センターのプロジェクトに別途申請し、それが認められたため、そこからもらっていました。

ちなみに講義についても、講義室代を開講する側が大学に払わないといけません。したがって、受講希望者が少ないとペイしないため開かれません。講義をする人も、教員だと幾ら、大学院生だと幾ら、と決まっています、それは払わないといけませんから、決められたバジェットの中でだれが講義をするべきかを決めないといけません。そのような議論も研究室のミーティングで行われていました。



大学の自室。廊下との間はガラスなので、中はのぞける。椅子が二つあるのはディスカッション用。

* 1SEK = 約 12 円。なお、2008 年秋に約 18 円から約 11 円まで暴落した。



12月初めのルチア祭。サンタルチアを歌っています。



冬至の午後3時半。真っ暗で、飾り付けをしたくなる気持ちがよく分かりました。



2月になると川が凍って近道ができます。

冒頭の質問を受けたときの回答は、以上のようなことを知っているかどうかで随分変わってくるのではないのでしょうか。修士課程の学生は、スウェーデンでは大学院生ではなく大学生なのです。そして、大学生の教育についてはそれに義務を持っている大学院生が存在しており、必ずしも教員が教育する必要はありません。むしろ、教員は大学院生がちゃんと教育しているかどうかを監督する必要があります。大学院生は大学生が行う修士論文の点数を付ける権限を持っており、これをすれば何点上げるよ、これをしないと点を上げられないよというアメとムチを使い分けながら研究をさせ、修士論文を書かせていました。

文字どおりの対応関係、すなわち日本の学士≒スウェーデンの学士、日本の修士≒スウェーデンの修士、日本の博士≒スウェーデンの博士、というとらえ方が普通だと思います。確かに講義の内容としてはこのとらえ方でそれほど問題はないと思います。一方、研究にどれだけ時間をかけたかだけで判断すれば、日本の学士≒スウェーデンの修士、日本の修士≒スウェーデンの Licentiate、日本の博士≒スウェーデンの博士、ととらえることもできると思います。もちろんこのとらえ方は一面にすぎませんが。

また、スウェーデンの博士課程で給与を得ている大学院生は、日本でいうと、最近あまり多くはないと思いますが、修士号を取った後すぐに助教になり、教育活動を行いつつ博士号取得を目指す人に近いように感じました。このように一見同じ言葉だけでも違うことが存在するというのは、ある程度の期間滞在してしないと体感できないことだと感じました。

3. 研究室における学生の構成

私の滞在した研究室には10名以上の大学院生が所属していました。その中でスウェーデン人は1人のみで、出身国はイタリア、イラン、カザフスタン、中国、トルコ、ニカラグア、パキスタン、ルーマニアと多岐にわたっていました。主に他大学で博士号を取った後に任期付きで雇われるポストドク研究員や、私のような客員研究員も積極的に受け入れていました。ただ、複数人からなる研究プロジェクトは、例えば宗教や文明といった文化的な背景の近いメンバで構成されていることが多かったり、文化的な背景が大きく異なる人からなる比較的大きなグループをまとめる立場にいるのは大学院生と比べて経験豊富なポストドク研究員だったり、ちゃんと適材適所になっているように感じました。ちなみに、ポストドク研究員や博士号をもうすぐ取れる大学院生の歳を聞いてみると、私と同じ30歳前後の人が多かったです。博士号取得後の進路は、エリクソンへの就職と、自分の国での就職というのが大きな流れでした。エリク

ソンに就職した人は、標準化に携わる人が多いようです。

大学院生の給与が一律で決まっているのに対し、ポストドク研究員をはじめとした研究員やプロジェクトマネージャは教授に雇われていて、その給与は働きに応じて教授が決めるようでした。

大学院生のほとんど、特に大学院の後半の学生には、パソコン、ディスプレイ、ホワイトボードなどのある個室が与えられていました。個室といっても壁は薄く、隣の部屋の話し声は聞こえるようなものです。私を含めた客員研究員、ポストドク研究員も個室を与えられていました。ディスカッションの際には自分の部屋に呼ぶか、相手の部屋に行ってそのホワイトボードを使いながら議論するような形でした。

修士課程の学生は先ほど述べたように大学院生ではないため研究室には所属しておらず、修士論文のための研究に際して研究室によくやってきましたが、部屋の割当はなく、パソコンのあるスペースにいました。

4. スウェーデンの通信事情

日本の通信事情はどのような状況か、という質問に端的に答えるのが難しいのと同様、スウェーデンの通信事情を簡単に説明するのも難しいのですが、一応書いておきます。

私自身は前回(No.14, pp.74-75)記したとおり、USBタイプの下り最大7.2Mbit/sのHSDPA無線データ通信端末を使っていました。2008年時点で、12か月契約だと契約金が250SEK、月額199SEKでした。大家さんも有線のデータ通信を解約して同じものを使っていたため、それ以外は経験がありません。日本との音声通話にはスカイプを使いました。携帯電話はプリペイドのものを一応買いましたが、ほとんど使いませんでした。単身赴任だったため、逆に日本から持って行った携帯電話をローミングし、妻とメールしていました。絵文字を使うために高いローミング代は目をつぶっていました。

スウェーデンにいる知り合いに現状を聞いた話によると、ストックホルム中心部に近いメインキャンパス近くの学生寮では10Mbit/sのDSLで月額300SEK。私のいたシスタキャンパス近くでは100Mbit/sの光ファイバで月額400SEKだそうです。

5. むすび

「村上春樹の『ノルウェイの森』の中で、主人公が作っていた料理って何でしたっけ？日本っぽいものだったと思うんだけど」と、ある事務員に聞かれました。皆様ならどう答えますか…。彼女には後日『村上レシピ』という本を贈ってお茶を濁しておきました。